

「風の中 行ったり来たり」

新居 智景 (にい ちかげ) 5歳

和光こども園 (四州教区)

●表紙のことば●

今まさに、親ツバメが、子の待つ巣へ戻ってきた瞬間をとらえています。二羽の親ツバメは巣のすぐ側ではばたき、五羽の子つばめは巣から頭を出して餌を待っています。餌を求めては飛んで行き、また子の待つ巣に戻って来る。この愛情溢れる親ツバメの営みに、興味と共感を持って見つめ、それを生き生きと表現しています。

智景さんが自分で見て、感じたことを素直に表していることは、円の集合で表された巣を見ても良く分かります。どこにでもある「巣」の概念を描いたのではなく、自分が見て感じた「巣」を自分なりに工夫して描き出しているのです。毎年、春になるとツバメがやって来て、巣作りからはじまり、卵を産み、子ツバメが誕生します。先生は、子供達の声や様子に共感しながら、発見したこと、驚いたこと、心をとらえたことを素直に表現できるように見守り、小さな命の営みから、生き物の生き方や命の大切さを感じ取ってくれることを願ったそうです。



おおはし いさお
大橋 功

和歌山信愛大学